

第44回心筋生検研究会学術集会報告 — 解明と治療を目指す心筋生検 —

Overview of the 44th Annual Meeting of the Cardiac Biopsy Conference : Myocardial biopsy for clarification and treatment

会 長 中 村 一 文 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 循環器内科学)

Kazufumi Nakamura (Department of Cardiovascular Medicine, Faculty of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University)

事務局長 吉 田 賢 司 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 CKD・CVD地域連携包括医療学講座)

Masashi Yoshida (Department of Chronic Kidney Disease and Cardiovascular Disease, Faculty of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University)

この度、第44回心筋生検研究会学術集会 (the 44th Annual Meetings of the Cardiac Biopsy Conference) を2022年11月11日 (金) から12日 (土) まで WEB 開催させて頂きました。

本研究会は心筋生検標本を持ち寄って討論していた勉強会を母体として、1979年から立ち上げられ、すでに44年の歴史があります。心内膜心筋生検法 (以下心筋生検) は経カテーテル的に右室中隔または左室壁の心内膜側から心筋組織を生検して、病理診断を可能にする検査法です。1962年今野、榊原らにより日本で開発され、世界中に広まりました¹⁾。現在は心臓移植の拒絶反応の診断・心筋炎や心筋症の診断にかかすことができない検査法です²⁾。本研究会は年に一度の学術集会のみならず、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心不全学会、日本病理学会などとコラボレーションして活動の場を広げ、今話題となっているテーマを中

心に内容を企画して、心筋病理の世界を広めています。

当初は本学術集会は岡山大学の鹿田キャンパス内で行う予定でしたが、COVID-19の影響にてやむなくWEB開催といたしました (図1)。北海道から九州まで日本全国からご参加の皆様の熱心なディスカッションで盛り上がりました。

テーマ

第44回心筋生検研究会学術集会のテーマは「解明と治療を目指す心筋生検」としました。心筋生検は診断モダリティーとして診療に有用であるのみならず、病因・病態の解明そして治療につなげていく上でも重要な役割を果たしています。本学術集会で皆様の経験・研究・英知を発表・議論頂き、さらなる発展に結びつけていきたいと考えました。



図1 Web のホームページの背景図

セミナー

変貌する心不全の治療と、オーファン・ドラッグによる治療がすすんでいる心筋症治療の現状にあわせて、心不全の治療薬・トランスサイレチン型アミロイドーシス・AL アミロイドーシス・Fabry 病のセミナーを企画しました。

1. 「心アミロイドーシスの正確な早期診断を目指して：病理医と臨床医の立場から」と題して東京女子医科大学 病理診断科の吉澤佐恵子先生からご講演頂きました。野生型トランスサイレチン型アミロイドーシス (ATTRwt) は、心不全を発症し治療が必要となった時点で、すでにアミロイド沈着が高度となっている場合が多く、このため、治療の有効性が期待できる病初期段階の症例を見つけ、適切に診断し、早期に治療を開始することが重要であること、またトランスサイレチン安定化薬の開始基準には、アミロイドの病理組織診断が必須であるが、病型分類は多くの施設で高いハードルとなっているのが現状であることなどをご講演頂きました。

2. 「心不全治療におけるベルイシグアトの役割」と題して岡山大学学術研究院医歯薬学域循環器内科学伊藤 浩教授からご講演頂きました。ベルイシグアトの作用機序と臨床データを解説頂きました。NO-sGC-cGMP 経路に作用することで血管内皮機能と心機能の回復が期待される薬剤で、左室駆出率が低下した心不全 (HFrEF) 患者では標準治療への上乘せで心血管死と心不全入院のリスクの抑制が期待できることを報告されました。

3. AL アミロイドーシスに関しては循環器内科と血液内科の先生にご講演頂きました。まず「反転攻勢の AL アミロイドーシス診療ー循環器内科の役割と他科連携の意義ー」と題して慶応義塾大学医学部循環器内科 遠藤 仁先生に、M蛋白や遊離軽鎖を測定し、血液内科と連携していくことの重要性を教えてくださいました。次に「血液内科から見た AL アミロイドーシス」と題して広島赤十字・原爆病院血液内科部 片山雄太先生に AL アミロイドーシス治療である Dara-CyBorD 療法 (グラツムマブ、エンドキサン、ボルテゾミブ、デカドロン併用多剤化学療法) について詳しく話を頂きました。

4. 「左室肥大を診たらファブリー病を鑑別に！」と題して鹿児島大学病院心臓血管内科 樋口公嗣先生に

原因不明の左室肥大患者の3%に心ファブリー病が存在することなど教えて頂きました。

学術企画委員会セッション

「心内膜心筋生検は今後どこまで心筋症の診断・評価に有用か？」と題してエキスパートの先生にご講演頂きました。まず国立循環器病研究センター病理部大郷恵子先生に「隠れた二次性心筋症の診断、心筋生検のピットフォール」について、次に昭和大学医学部法医学講座 松山高明先生に「特発性心筋症の評価 多施設による示唆的コンサルテーションの提案」について、最後に「AI を利用した次世代の心筋生検の評価方法」と題して奈良県立医科大学循環器内科 尾上健児先生にご講演頂きました。心筋生検の今後の展望について有意義な議論ができました。

「留学の勧め movie」セッション

グローバル人材を育成すべく、留学中の先生・帰国されたばかりの先生による「留学の勧め movie」セッションを開催しました。

留学中の先生方では、Saha Cardiovascular Research Center, University of Kentucky から岡岡尚史先生に Department of Epidemiology, Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health Welch Center for Prevention, Epidemiology and Clinical Research から江尻健太郎先生に現場の画像を交えてお話頂きました。帰国された先生として日本医科大学多摩永山病院 齋藤恒徳先生から、ご帰国後のご活躍を含めてお話頂きました。

YIA/ 一般演題

日本全国から症例検討を中心に報告いただきました。現状を反映して COVID-19 関連の演題も複数ございました。三重大大学の大森 拓先生には、「“心筋病理でみた COVID-19 ワクチン関連心筋炎” の多施設共同後ろ向き研究」と題して心筋生検研究会の皆様で行っている研究の現況を報告いただきました。岡山大学の同門・関連病院からは中島充貴先生 (岡山大学)、斎藤幸弘先生 (岡山大学)、土田彩加先生 (岡山赤十字)、杉生有広先生 (福山市民)、高橋 生先生 (福山市民)、近間俊介先生 (岡山医療センター)、飛田諭志先生 (姫路赤十字)、岡 明宏先生 (香川県中)、宮原克徳先生 (津山中央)、杉山洋樹先生 (岡山済生会)、河口達登先生 (岩国医療センター) にご発表頂きました。皆様素晴

らしい発表でした。ありがとうございました。

おわりに

2日間の学術集会では100名を超える参加者に web 参加頂き、盛会の内に終えることができました。今回の成果が、心筋生検のさらなる発展とともに循環器診療の発展のための一助になることを祈念いたしております。次回第45回心筋生検研究会学術集会は大会長の新潟大学循環器内科学の猪又孝元教授のもと新潟大学にて開催予定です。皆様のご参加お待ちしております。

最後になりましたが、準備・運営にあたりご助言・ご支援いただきました全ての方々、演者・座長の先生方、参加者の皆様方に心より御礼申し上げます。特に岡山大学循環器内科学 吉田賢司先生・大守雅代様・赤沢 薫様には事務局を手伝っていただきました。心筋

生検研究会 運営委員長 今中恭子先生（三重大学）と事務局長 植田初江先生（国立循環器病研究センター）には多くのご助言・ご支援を頂き深謝いたします。

文 献

- 1) Sakakibara S, Konno S: Endomyocardial biopsy. Jpn Heart J (1962) 3, 537-543.
- 2) Seferovic PM, Tsutsui H, McNamara DM, Ristic AD, Basso C, et al.: Heart Failure Association of the ESC, Heart Failure Society of America and Japanese Heart Failure Society Position statement on endomyocardial biopsy. Eur J Heart Fail (2021) 23, 854-871.

2023年3月20日受稿

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1
電話：086-235-7351 Fax：086-235-7353
E-mail：ichibun@cc.okayama-u.ac.jp